



## 第2回(2022年)岡野賞受賞演題

### 赤ちゃんに対する気持ち質問票を用いた、 母親の乳児へのマルトリートメントに対するスクリーニングの有用性

森美由紀 (福島県立医科大学看護学部母性看護学・助産学部門、同大学大学院医学研究科発達環境医学)

この度は岡野賞という素晴らしい賞を頂戴し、誠にありがとうございました。また、本研究に協力して下さった参加者および、ご指導を頂いた共同研究者の皆様には深謝いたします。

賞を頂きました研究内容について、ご紹介いたします。母親のボンディング形成不全は、乳幼児虐待といった不適切な養育(いわゆるマルトリートメント)のリスクとなるため、周産期メンタルヘルスにおける重要な課題です。ボンディング形成不全のスクリーニング法として「赤ちゃんに対する気持ち質問票」が広く活用されています。この質問票では、質問項目全10項目で評価するだけでなく、「情緒的な感情の欠如」(質問項目1, 6, 8, 10)と「怒りと拒絶」(質問項目2, 3, 5, 7)でも評価できることが明らかとなっています。

母親のマルトリートメントに対するスクリーニングのカットオフ値について、質問項目全10項目を検討した研究はありますが、「情緒的な感情の欠如」と「怒りと拒絶」について検討した研究は我々の知る限りありませんでした。そこで、環境省が実施している子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)に付随した追加調査を実施して、産後1ヶ月の母親を対象に検討を行いました。その結果、「怒りと拒絶」4項目の合計2点以上が、乳児への身体的なマルトリートメント「赤ちゃんをたたく」のカットオフ値であることがわかりました。この結果を母子への支援に活用することで、母親による乳児へのマルトリートメントの予防・支援策の発展につながることを期待されます。

福島県立医科大学では、令和5年度より新たに大学院看護学研究科博士前期課程看護学専攻助産師コースと別科助産学専攻が開設されました。今後は、臨床への活用に向けて取り組むと共に、助産師を目指す学生へ周産期メンタルヘルスケアの重要性を伝えていきたいと考えております。

岡野賞・・・その年の学術集会において、母子にとって有益で、臨床実践でのモデルとなるような活動報告・研究のうち、最も功績があると認められた発表に授与されます

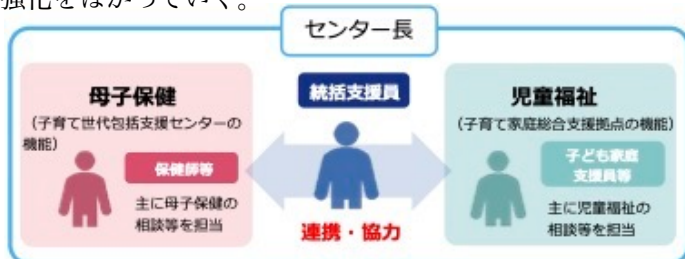
#### 周産期メンタル

#### ミニ情報

### こども家庭センター の設置

市区町村には、母子保健法に基づき、妊産婦や乳幼児の保護者の相談を受ける「子育て世代包括支援センター」と児童福祉法に基づき、虐待や貧困などの問題を抱えた家庭に対応する「子ども家庭総合支援拠点」が併存している。

国は現在二つに分かれている支援機関を一本化し、2024年4月以降「全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に相談支援を行う機関」として、こども家庭センターの設置を位置づける。こども家庭センターでは、児童及び妊産婦の福祉に関する把握・情報提供・相談等支援を要する子ども・妊産婦等へのサポートプランの作成や母子保健の相談等を行い、子育て世帯に対する包括的な支援の体制強化をはかっていく。



(評議員/高馬章江/岡山県備前保健所東備支所技師)

### 次回学術集会

第19回日本周産期メンタルヘルス学会  
10月28日(土)29日(日) 東京都千代田区一橋講堂  
大会長・竹内崇 (東京医科歯科大学病院)

### 多職種で支える周産期リエゾンのバトン ～皆の“育つ”“生きる”を支える～

#### <特別講演>

1. 子どもの虐待予防と妊娠期・周産期からの妊産婦支援
2. ステップファミリー支援と新しい家族観 - 子どもの視点からの再検討

#### <シンポジウム>

1. 地域包括ケアを支える周産期リエゾン～各職種の立場から～
2. 周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド2023を上手に使いこなそう!
3. “育つ”“生きる”を支える医療・自治体の取り組み

学会ホームページ <https://procomu.jp/pmh2023/>

一般演題募集: 5月15日(月)～6月30日(金)

事前参加申込: 6月1日(木)～9月30日(土)

### 企画・発行: 日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

新コーナー「周産期メンタル ミニ情報」では今後も役に立つ豆知識を紹介していきます  
ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください